

18 関東大震災からの復旧（丹沢・箱根地域）

神奈川県（山北町ほか）



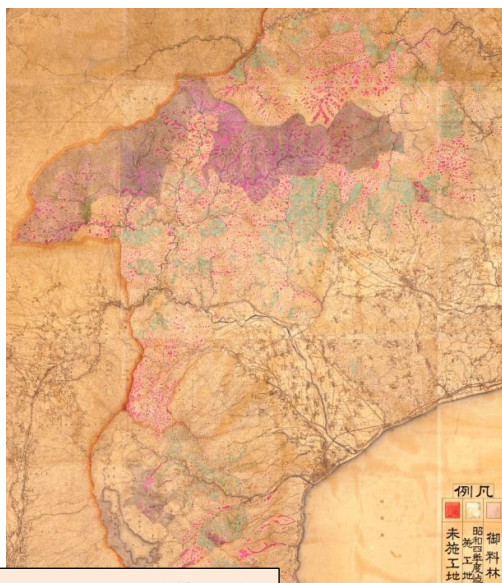
当時の荒廃状況（1923年）



山腹工施工状況（1920年代）



現在の状況



○所在場所

神奈川県足柄上郡山北町 ほか

○施設・工法の概要

溪間工、山腹工

○解説

関東大地震とその後の降雨・余震によって、8,632haにおよぶ崩壊地が丹沢・箱根山地を中心に発生しました。現在は緑に覆われている丹沢も、「崩壊で岩肌が露出したため平塚より遠望すると全山が真っ白に見えた」と表現されるほどの荒廃状況でした。

震災復旧工事は、当時治山先進県といわれる他県から技術者を招いて実施され、崩壊地に山腹工、下部の溪流に溪間工を施工し、ヤシャブシやクロマツ等の植栽を行い森林の復元を図る方法で、1923年から1930年の間に、1,913haで実施され、その後の治山技術の基礎を築いたといわれています。